

一般でご参加いただいた方からは、インストラクター養成講習会やBUCに関する質問もあり、キャンプ協会への理解と興味を広げる良い機会となりました。

一方で、昨年度より参加者数は多かったものの、所属する団体に偏りが見られたため、来年度以降に実施するにあたっては、様々な団体の指導者やボランティアスタッフの参加が図れるよう対策し、より活発な意見交換や交流のできる場への発展を目指していきたいと思ひます。

(報告者：おたる自然の村 二杉寿志)

「北海道アウトドアフォーラム2015」が開催されました！

昨年11月5日(木)、6日(金)の2日間、国立日高青少年自然の家で「北海道アウトドアフォーラム2015」が開催されました。このフォーラムは、「北海道で活躍するアウトドア関係者が一堂に会し、情報交換や交流を行うことで、立場(教育、観光、施設等)を超えたつながりや新しい価値を生み出すこと」を目的としており、当協会も後援団体として運営に協力しました。

プログラムは、観光まちづくりをテーマとした基調講演、各分野の活動事例やアイデア発表を行うプレゼンテーション、体験や話し合いを基に新しい価値を生み出すワークショップなどとなっており、プレゼンテーションのセッションでは、当協会の安原理事が「共に広げよう、楽しいキャンプの世界」をテーマにキャンプの魅力について発表しました。

参加者は総勢150名で、当協会の会員もたくさん参加していました。今年度も開催予定とのことですので、みなさんもこのフォーラムに参加し、新たな出会いやつながりを体験してみませんか？

(文責：青木康太郎)



北海道キャンプ協会 かわら版

2016.4.1

北海道キャンプ協会 発行

「視点を低くして立つ」

都市化、情報化、少子高齢化、核家族化、環境問題、ひきこもり・・・私たちを取り巻く社会はこんな言葉で表現されます。多くの方が人工物に囲まれながら、便利さや効率性を求める生活を送っており、今や買い物だけでなく人のコミュニケーションさえもインターネットで済ます時代になりました。

ある小学校の調査で「休日はどう過ごしますか」という問いに対し「友達と遊ぶ」と答えたのは全体の半分で、残りは「家でテレビ(ネット)を見ている」「ひとりでゲームをして過ごす」と答えたそうです。さらに驚きなのはその理由が、「友達と遊ぶのは面倒」「自由にできない、好きなように遊べないから面白くない」というものだったということです。他人とのコミュニケーションをわずらわしく感じる子どもたちは、だれかと直接関わりながら遊ぶよりも「家」と「ゲーム」があれば自己の欲求を充足できるし、友達とのやり取りはコミュニケーションアプリを使えば十分だと考えているようです。

このように子どもの生活環境は大きく変化してきましたが、その結果、これまで集団の中で体験的に学んできた他者との関係づくりができなくなり、人間関係のトラブルや葛藤への対応、また感情をコントロールすることに苦手意識を持ち、傷つきやすい子どもが増えています。

そんな子どもたちに、人と関わることの素晴らしさや楽しさを伝え、生活を豊かなものにするための手段としてキャンプは大きな役割を果たしてきました。五感を十分に使った活動で感性は磨かれ、これまで知らなかった、出来なかったことを仲間との協力やコミュニケーションをとおして手に入れることができますし、困難な課題も仲間と協力したらできたという小さな成功体験から得られる感動や喜びは、知識の記憶学習以上に多くのことを子どもたちに伝えてくれます。

そんな活動を支える私たち指導者の役割は、花や鳥や木の名前を最初から教えることではなく、子どもたちの可能性を信じ、「知りたい」気持ちに寄り添い、揺さぶり、ともに考え、彼らの心の中にある引き出しを子ども自身で開けられるようなきっかけを作ることです。

「Understand」読んで字のごとく、子どもたちの気持ちは視点を低くして立たないと理解できません。同様に、キャンプにおける指導も指導者側の「思い」だけに頼らず、そこに参加する人にどう役に立ってほしいかという視点で考えたいものです。

4月を迎え、会員の皆様もそれぞれ新たなスタートを切って動き始めていることと思ひます。指導者としてどう考え、どう行動すべきかを今一度確認しながら共に頑張っていきましょう。この一年もどうぞよろしくお願いいたします。

文責：下川原清貴(北海道キャンプ協会理事)

北海道キャンプ協会事務局

〒047-0155 小樽市望洋台2-14-1 望洋グिल्ツ(特)自然教育促進会内 担当：安原、岩崎

お問い合わせ TEL 0134(52)3240 FAX 0134(51)5667

E-mail: office@hokkaidocamp.com URL: <http://www.hokkaidocamp.com/index>

指導者養成担当より

「キャンプインストラクター養成講習会を開催します！」

平成28年5月13日（金）からの2泊3日で北海道キャンプ協会主催「キャンプインストラクター養成講習会」を開催いたします。

皆様ご存じのとおり、この講習会はさまざまな角度でキャンプの基本を体験し、指導者としてのスキルを学ぶことをねらいとしたもので、日本キャンプ協会が定めるキャンプインストラクターの資格を習得することができます。お近くに興味・関心のある方がいましたら、お声かけのご協力をよろしくお願いいたします。また、秋には釧路方面でのインストラクター養成講習会、札幌でのディレクター2級養成講習会（11月下旬）を予定しております。

参加者の募集と同時にこの講習会の運営にご協力いただけるボランティアも募集いたします。有資格者（インストラクター、ディレクター）の方で興味関心のある方は、北海道キャンプ協会事務局までご連絡ください。

<キャンプインストラクター養成講習会>

日 程：平成28年5月13日（金）～15日（日）の2泊3日

会 場：滝野自然学園（札幌市南区滝野106番地）

内 容：キャンプの特性、キャンプの生活技術、キャンプの安全など講義と技術

参加費：一般 13,000 円、学生 11,000 円（税込、宿泊費、食費、講習会費、テキスト代等）

※終了後、キャンプインストラクターの登録には、別途 15,000 円が必要となります。

申込・お問い合わせは、北海道キャンプ協会事務局までお願いします。



啓発活動・会員交流担当より

事業報告

BUC 事業 冬のリスクマネジメント

実施日：平成27年11月29日（日） 会場：中の島まちづくりセンター

今回のBUCのテーマは「冬のリスクマネジメント」。アイスブレイクゲームで全体の緊張をほぐした後は「冬におけるリスク」をテーマにグループに分かれて意見を交わしました。参加者の中には体験活動を始めたばかりのボランティアの方から長年業界で働いている方まで経験値も様々でしたが、お互いの意見を親身に聴き、知識を共有し合うことで今まで気付かなかった冬特有のリスクを発見することができたようでした。また、講師の実体験を踏まえた気温や気象の変化、雪上活動の危険について話を聞きながら、リスクを再認識する方や新たな知識としてメモをとる方などそれぞれ意欲的に取り組んでいました。

AEDと心肺蘇生法の実技練習では講師からの説明を踏まえて参加者同士が活発にアドバイスをし合う場面が多くあり、今回も学びと交流の深いBUCになりました。アンケートの結果からも「大変良かった」が64%、「良かった」が36%であったことから参加者全員が有意義な時間を過ごすことができたのではないかと感じました。

【受講者の声】

- ・冬の危険やその対処法、心肺蘇生やAED使用方法などを再確認できて良かった。
- ・実践しながらの救急法は大変良かった、とても楽しい雰囲気講習会だった。
- ・冬に起こる危険な事を話し合うことで自分が気付いていなかったことを他の方から学べたので良かった。
- ・「こんな危険がある」ということを知るだけでも気を付けることができると思った。冬の活動に今日の知識を活かしたい。
- ・一度やったから、聞いたからで身に付くものではないと感じた。何度も聞き、実践を繰り返すことで身になると実感した。

（報告者：NPO法人こども共育サポートセンター 長江集子）

キャンプ指導者交流会

実施日：平成27年10月30日～31日 会場：滝野自然学園

昨年度の「キャンプ指導者交流会」では、社会人や土日に活動のある方が多く参加する傾向があったため、今年度は金曜日の夜から翌日土曜日の朝までの時間設定とし、会場も参加見込みのある会員の多くが札幌在住であることを踏まえて比較的足を運びやすい滝野自然学園としました。

当日は会員や一般の方、協会スタッフを含め合計で24名の方にご参加いただき、所属団体や活動等の自己紹介の後、自由に交流を広めていただきました。特に、今回の指導者交流会は20代～30代の若者が多く集まり、団体の垣根を越えて交流を深めることができ、意見交換や情報共有の場となったと思います。

